

## 東京丸の内ロータリークラブ

### 第29回 例会議事録

**卓話： 昭和女子大学理事長・総長  
坂東 真理子 様（東京 RC）**

**2019年6月5日（水）**

**会場 センチュリーコート丸の内  
アカンサスノース・ルーム**

## ① プログラム

- ◆ 司会進行 古山真紀子会員
- ◆ 開会点鐘 尾崎由比子会長
- ◆ ロータリーソング 岸宏保会員  
「奉仕の理想」
- ◆ 卓話者紹介 古山真紀子会員  
卓話者：坂東 真理子 様（昭和女子大学理事長・総長、東京 RC）  
東京大学文学部心理学科をご卒業後、1969年総理府入府。1995年に埼玉県副知事、1998年には女性初の総領事として豪州ブリスベン総領事、内閣府男女共同参画局長、2003年退官。同年昭和大学の理事就任。現在は昭和大学理事長・総長。2006年「女性の品格」が大ブームに。最近では「70歳のたしなみ」が話題。今年7月設立予定の東京学校支援機構の理事長就任予定。女性初の東京 RC 会員。

- ◆ ゲスト・ビジター紹介 古山真紀子会員  
寿原 裕美子 様（宝田・寿原会計事務所 代表  
税理士）  
野生司 義光 様（ガバナーノミニー・東京小石  
川 RC、2020-21 年度 2580  
地区ガバナー就任予定）  
若林 英博 様（次年度ガバナー補佐、東京麹町  
RC、2021-22 年度ガバナー）  
吉田 弘和 様（次年度地区幹事・東京麹町 RC）  
高橋 ゆき 様（東京紀尾井町 RC）  
中村 ひろみ 様（東京紀尾井町 RC）  
西村 美智子 様（東京お茶の水 RC）  
金子 友未 様（東京田無 RC）
- ◆ ニコニコ報告 久保田佳代会員  
・金子 友未 様（東京田無 RC）  
「本日はよろしくお願ひいたします」  
・尾崎 由比子 会長  
「本日は多くのビジター、ゲストの皆様にお越し  
いただき感謝申し上げます。坂東先生、本日の卓  
話楽しみにしております。どうぞよろしくお願  
ひいたします」  
・嘉納 英樹 会長ノミニー  
「貴重なお話をどうもありがとうございます。丸  
の内へのご指導もよろしくお願ひします」  
・塩島 由晃 幹事  
「本日は、坂東様の卓話を楽しみにしております」  
・藪口 真太郎 会員  
（本日合計 22,000 円 〈累計 1,381,000 円〉）
- ◆ 6月 お誕生日お祝い  
・堀江智生会員、千賀みどり会員



## ② 会長報告

### (1) ビジター、卓話者へのお礼

本日は多くのゲスト・ビジターの皆様にお越し頂き心より感謝申し上げます。

東京丸の内ロータリークラブの例会は月2回ですので、私の会長年度の例会は本日を含めてあと2回になりました。最終例会には卓話がございますので、今年度最後の卓話に坂東眞理子先生をお招き出来たことは、大変光栄に思っております。

また、本日は次年度ガバナー補佐訪問日でもあります。若林次年度ガバナー補佐、吉田次年度地区幹事、お忙しい中お越しいただきありがとうございます。また本日は野生司ガバナーノミニーのご来訪もかないました。丸の内RCは新米クラブにもかかわらず、地区の皆様から可愛がっていただけて幸せなクラブだと改めて思います。

本日卓話者の坂東先生には、以前日本女性エグゼクティブ協会の合宿で一緒させていただき、先日W20の歓迎パーティーで再会し、その際、東京丸の内RC創立をお伝えしたところ、大変ご興味を持って下さいました。無理を承知で卓話をお願いしたところ、ご快諾いただけました。本日は他ク

ラブの女性ロータリアンも多数ご参加くださっております。ぜひともこの機会に親睦を深めて頂きたいと思っております。

人生100年時代の女性のこれからの生き方についてのお話を頂けるとのことです。皆様どうぞ楽しみになさってくださいませ。

### (2) 認証状、感謝状贈呈式

贈呈者：野生司義光ガバナーノミニー

・ポール・ハリス・ソサエティ認証状

嘉納 英樹 会長ノミニー

・ポール・ハリス・フェロー認証状

尾崎 由比子 会長

嘉納 英樹 会長ノミニー

塩島 由晃 幹事

・米山奨学功労者 感謝状

嘉納 英樹 会長ノミニー





### ③ 幹事報告

#### (1) SDGs セミナー（6月21日）について

会員の皆様には出席と集客の方、よろしくお願ひします。

#### (2) 国際大会（2020年6～10日）について

国際ロータリーからメールでお知らせが行っているかと思いますが、来年度のハワイ国際大会申し込みの早期割引がスタートします。ご興味のある方は見ておいてください。

### ④ 出席報告 臼杵会員

会員数	22名	ゲスト	1名
出席数	18名	ビジター	7名
欠席数	4名	出席率	81.8%
	前回修正	出席率	—

### ⑤ 卓話： 昭和女子大学

理事長・総長（東京 RC）

坂東 眞理子 様

みなさん、こんにちは。ご紹介頂きました坂東眞理子です。経歴も年齢もばれてしまいましたけど、女性はもう少しミステリアスな方がいいですね。私自身は長年公務員をしております、今は女子大におります。今日も18歳新入生の学生たちに「大学で何を学ぶか」についてお話をした後にこちらロータリーに参りました。大分、大学1年生とは違うな、と思います（笑）。人生はどんどん長くなっているのだ、ということで、今日のお話のお題は、「人生100年時代を見据えてのこれからの女性の生き方について」です。男性の方達にも参考になるようにお話させて頂きます。

2年前、「ライフシフト100年時代」というテーマが出されました。人生が70年時代から100年時代が変わってきたという図です。上の方は昭和的人生モデルです。男性も女性も、20代で教育が終わったら、後は仕事あるいは家事・育児、そして定年ですっぱり引退してあとは悠々自適と。ところが残念ながら今は通用しなくなりました。

とはいえ、今の大学1年生にとって、ほとんどの母親は、専業主婦の後、自分が中高生になってパートで働き始めた、という「家庭」に重点を置いた生き方をしていました。今の学生たち自身も、育児や家事を優先した30代を送るのではないかな、と思い込んでいます。でも、実はこれからどんどん変わっていくのだということを、私はいろいろな機会にお話しています。



今、日本の女性の20歳～69歳までの労働力率は66.1%、3分の2の人が働いています。この割合はアメリカよりも高いです。アメリカはトランプ政権の前からあまり社会保障が進んでいなくて、例えば産休はありません。男女平等です。12週間の有給休暇を利用して子供を産みます。子供を育てるのは親の権利であり義務、ということで、日本の厚生労働省のようにたくさんの補助金を公立保育所やこども園につぎ込むなどということはしません。豊かな方達は住み込みのナニーを雇えますが、お金のない人たちは50人の子供にテレビが子守り、という劣悪な私立保育所に預けたりします。それでも補助金がないので、費用がかかる。夫も時短で働くなど、助け合って育児します。このように保育についてもたいへんな格差があります。それに比べると日本、あるいはヨーロッパ、とくに北欧は、

社会全体で保育・介護を支えようとしています。育児休業もスウェーデンでは480日。それに父親のとれるお休みが上乘せされます。スウェーデン型・北欧型社会とアメリカ型の自助社会のちょうど真ん中あたりが日本です。今はややヨーロッパに近づいて来たかな、というところです。その一番大きな理由は、少子化、高齢化、労働力不足です。女性にも働いて頂かないと社会が回っていかない、ということです。また、男性も「定年が来たらずばっと仕事を辞めて悠々自適」というのは段々とビジョンではなく、イリュージョンになりつつあります。厚生省も「年金ばかりをあてにしないで」という見通しを出しています。私は、一番大きなキャリア設計は、「60代になっても70代になっても、出来るだけ働く。社会とつながっている。社会保険の収入に自分でプラスしていく」というのが、これからの社会の経済的対策だと思います。また、精神的にも健康的にも、社会から必要とされる存在であり続ける、というのが大事だと思います。人生のピークが40～50代、その後どんどん衰えていく、そのような「上がって、下がる」人生というマインドセットではなく、「another stage なんだ」という意識。別の楽しみや苦勞もあるし、やりたいこともそれぞれのステージ毎にあるのであって、比較することはしないのではないかと、思います。

ただ、正直申しまして、20代の学生たちを見ると、「あー、大変だな。世の中のことをわかっていないな」と思うことが多いです。自己評価が上がったり下がったり、それが段々と経験を経て、40～50代にやっと一人前になれるのかな、という気がしています。日本の男性は未熟な若い女性を好むのですね。光源氏と若紫のような。若い女性の方が魅力的に見えるかもしれないけれど、人間としてはまだまだ未熟です。失礼だったり自分勝手だったり。お金と時間のある男性はどうぞ気を付けてくださいね(笑)。私自身を振り返ってみても、30代の大台に乗る時いやーな感じがありました。今になってみると、30代でやっと仕事が

出来るようになった。40代になる時もいやだなーと思ったのですが、管理職になったこともあり、根回しをしながらチームで協力して仕事をするを学び、なかなか良い時代でした。50代はいろいろありましたが、60代になって生れて初めてベストセラーを出しました。でもこの本は33冊目なんです。よく「ベストセラーを出す秘訣は何ですか？」と聞かれますが、「32冊で諦めないことです」と答えます(笑)。たくさん読んで頂けるというのはもちろん嬉しいのですが、書きたいことがある、出版して頂ける会社があるというだけで、有難いし、書いているうちに神様が幸運を恵んでくださるといふこともあるのです。60代でも70代でも、いろいろな出会いがあるし、仕事がある。諦めず、受け入れる気持ちをもっていればチャンスもあると思います。

先ほどご紹介のありました東京都の学校教育支援機構は7月1日に立ち上がる予定ですが、今、小・中・高校の教員免許を持っている先生達が非常に忙しい。親御さんたちとの対応、メンタルな問題を抱える中高生などは、専門家に支えて頂く。あるいは、小学校における英語教育を、教員免許がないが能力のある人材にお手伝い頂く、そのような協力のしくみを作り、学校教育に風穴を開けていきたいです。何よりも次世代を担う子供たちがいろいろな価値観や人生に触れることにより、広い視野を養うことが出来るのでは、と期待しています。日本は偏差値教育で、成績のいい子が大学を卒業していれば、大して勉強していなくても企業が採用し、企業に入ってからしっかり育てますというのが今まででした。ところが、人生100年時代、グローバル化時代では、企業にそこまで体力がなくなっている。途中で自主的に勉強する、というような、新しい学びのスタイルも必要になると思います。従来は、大学教育に期待していなかったのかもしれないです。でも、これからは、ちゃんと勉強出来るということが大切。昭和女子大学では会計ガイダンス学科を作りました。むしろ、お父さ

ん、お母さんの方が熱心で、専門的な知識を持って社会に出た方が良い、という考え方ようです。女の子に対する教育もこれから変わってくるでしょう。戦国時代も有能な上司(大名)を求めて、豊臣秀吉や明智光秀があちらこちらさまようということがありました。グローバル競争社会もそのような人が増えてくるかもしれないです。

そんな中、「安定的な仕事をして妻子を養ってくれる男性でないと結婚しないわ」と女性が言っていると、結婚できない男性が増えてしまいます。実は少子化の一番の理由は、男性が結婚していないことなのです。日本の男性の生涯未婚率は23.6%です。私達団塊の世代では、2%だったのです。昔は親戚、上司がお膳立てをしましたが、今では自助努力で相手を探す、ということになってしまいました。するとなかなか相手が見つからない。また、性別による役割分担として、男性は「妻子を養える収入がなかったら結婚する資格がない」と思い込んでいる人が多いです。「稼ぎの良い女性に癒しを与える」とか、そういう結婚があってもいいですよ。これからはそのような意味でも多様化するのではと思います。

昭和後半にはいわゆる「結婚適齢期」というのがありました(今では死語になっています)。「25歳までに結婚しないと女性の価値が暴落する」と。なので、私も実は24歳で結婚しました。今は女性の平均初婚年齢は29歳です。また、ピークの年齢はなく、なだらかになっています。男性に比べれば生涯未婚率は低いです。また、男性の国際結婚はアジアの方を中心に少し伸びています。女性はむしろ欧米系ですが、多様化しています。子供を持つ年齢も今は30代前半です。40代以降に子供を持たれる方も多く、今では子供は、「神様からの授かりもの」から意識的に計画するものとなっています。以前アメリカの女性たちが”Establish career first. After, I will have a family”と言っていたのを、「日本ではあり得ない」と思ったものですが、日本もそれに近づいているのかな、という気がします。とこ

ろが、今の学生達は、まだ就職を考える前、ボーイフレンドすらいないのに、「子供が生まれても続けられる仕事につきたい」と言っています。ブラック企業ではなく、ワークライフバランスの整った企業に行きたいという気持ちがとても強いです。それもとても大事な条件なのだけど、自分がしたい仕事なのか、成長できるのか、社会に役に立つ仕事なのか、ということがとても重要かと思えます。

日本では、仕事を辞める理由が「将来の見通しがたたない、仕事に生きがいを感じられない」という女性が多いです。アメリカでは、「育児や家事との両立が難しいから」辞めるという人が多いです。日本の方が育児中も働けるサポートが充実しつつあるにもかかわらず、「将来に希望をもって働けるような仕事」に就ける女性は少ない、ということです。私が心配しているのは、今、女性がやっている仕事の多くはAIに置き換えられてしまのではないかということです。女性はもっとAIの出来ない仕事、同じ専門職でも高度な専門職を目指すべきと思います。

また、出産の後、育児をどうするか。今、6歳までは保育所が整備されていて、悪名高き待機児童も減っています。三軒茶屋地域は昭和女子大学が頑張って待機児童はゼロになりました。6歳まではむしろ安心して働ける。その後小学校低学年はどうするか、ということが問題です。施設は整いつつあるが、まだマインドセットが変わっていないです。配偶者、親戚、母親自身が、「24時間母親が育児をすべきなのに、充分やっていない」と考えることがまだまだ多いのが現状です。

ワーキングマザーの罪悪感の一方で、専業主婦たちもとても大変で、「孤立した子育て」「ワン・オペレーション育児」と言われるくらいです。手伝ってくれる父親や親類縁者もいない中で、コミュニケーション能力のある母親は地域ネットワークを作れるのですが、コミュニケーション能力の乏しい母親の場合は、母親の孤立が子供にも影響し、母子孤立型、母子密着型育児になります。どうしたら

次世代を育てる応援体制を整備できるのか、ということとはとても大きな課題です。



人生100年時代ということは、人生の折り返し地点が大体44歳です。その頃は、ほとんどの人がそろそろ子どもが手を離れ始める時期です。その後こそ、私は一番良い「社会の支え手」ではないかと思っています。「今は人手不足」と中小企業の方はおっしゃいますけれども、人生後半期の女性こそ最高の働き手です。人生経験もあるし、教育も受けているし、家庭で育児をすることによって人間的に成長も遂げています。「20代の未熟で不確定要素を持っている若い子よりも40代後半からの女性の方がしっかりとした働き手ですよ」と言っているのです。でも「ノーサンキュー」。なぜか？新しい物に関して食いつきが悪い、過去にこだわる、夫の地位にこだわる、しがらみがあってゼロからスタートしようという気にならない人が多いからです。でもそこを人生100年時代に合わせて切り替えれば、40代、50代、60代、70代まで働けます。単純な仕事ではなく、意義のある、社会に関わる仕事というのを考えなくてはならないと思います。長い100年という期間、他人から世話を受ける（インプットの）期間と他人の世話をする（アウトプットの）期間に分けるとすると、後

者の方が長くあって欲しいと思います。今、若い方々とお話をしていると、「もしかしたら親の介護が入ってくるかもしれない」、「孫が生まれたら孫の世話をしなくてはならないかも」とか、いろいろな理由でなかなか新しいことに踏み出せない、自分自身で諦めてしまう、ということが多いです。ぜひ、男性達も「やれば出来るよ」と背中を優しく押してあげて頂きたいと思います。

人生が長くなったことで一番良いのは、過去の栄光を覚えている人は少なくなるのですが、逆に人生前半で上手くいかなかったこと、失敗も、他人は結構忘れていくということです。人は他人のことをそんなには気にしていません。そのように考えると、囚われない自由な心でチャレンジできると思います。「今さらそんな・・・」とか、「前はあんな地位にいたのに」とか言っていてはいけません。大事なものは、自分が本当に好きなことは何か。得意なこと何なのだろうと問うこと。不得意なこと、やりたくないこと、やらなければならないこと、人生にはいろいろありますが、それをそぎ落とした後にできるコアなもの、それを発見してサブマネーにつながれば一番いいですね。たとえつながなくても、自分の得意なことを伸ばしていくことによって、自分も周りもハッピーになるのではないのでしょうか。よく、管理職になるまでは、やりたいこともやらず、言いたいことも言わずに我慢しなくては出世できない、と言われます。でも我慢したからといって偉くなれるわけではありません。得意なことで業績を上げることによってしか人は評価されないし、貢献もできないのだ、ということを女性たちも認識しなければいけません。女性は「あまり自分を出さない方がいい、その方が可愛がられるよ」という hidden message を何度も叩きこまれます。それが最後は「かわいいおばあちゃん」願望になります。「いい人」だと思われたい、他人の評価を気にする、そのようなメンタリティになりがちなのですが、もっと主体的に、自分自身が自分の主になる。本当に自分の出来ることは何なの

だろうか、そして一人で過ごす時間、孤独な時間を過度に恐れずに、一人もまたよし、他の人と一緒にまたよし。基本は個人だと思い、たまたま自分を理解してくれる人と出会えたというのは、本当にありがたい、普通にはないことなので感謝する。でも人間とは難しく、せっかく出会った家族には粗末に不機嫌に対応してしまう。本当はそういう人達こそ丁寧に上機嫌で接するようにしてはならないのですが、なかなかこれは難しいです。私は今70歳で、本当はもう修行を重ねて人格者になっていなければいけないのですが、つついそうではない自分が顔を出します。でも、その分まだだのびしろがあるのだ、成長の余地があるんだ、人間未熟だからこそ生きている甲斐があるのだ、完成してしまったら楽しみがないのではないかと、思っております。

若い人を見てみると、不安なのですね。自分に自信がない。応援してもらおうと「あ、わかってくれるんだ」と、とても喜びます。私達はどうしても上ばかり気を使い、若くて努力をしている人達の努力を見過ごしがちです。そういった若い人たちが努力していることを応援する。相談にのる。アドバイスする。そのような形で若い人達を応援することによって、人口が減っていく日本もまだまだ幸せな社会になるのではないかと思います。

お時間になってしまいました。ご清聴どうもありがとうございました。

#### ◆閉会点鐘 尾崎会長

坂東先生ありがとうございました。私がちょうど50歳くらいの時にこの丸の内ロータリークラブの設立に携わり、いろいろ人生を見直す時期となりました。どうしても人生を逆算して焦ってしまいがちですが、今のお話を伺って、これからも夢が広がっていくのだ、遅すぎることは何一つないのだな、と感じ、元気を頂いたように思います。

(議事録作成：事務局 桑原)